

## 広海二三郎家の北前船経営

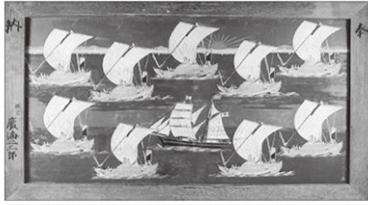


図1：広海家所有船が描かれた船絵馬。中央は広海家が初めて購入した汽船「加州丸」。左側「水」が見える。白山神社奉納（石川県加賀市運送所）。78.3cm×132.5cm 画像：『写真集 北前船の遺産』（1994年）



図3：廣進丸（1924年新造。6,057トン）  
北前船の歴史資料館船主紹介シリーズ②  
展示（4等艙）。2016年。



図2：広海商事株式会社の社旗。  
北前船の歴史資料館船主紹介  
シリーズ②展示。2016年。

1900年代以降、北海道での鯨漁獲量が減少し、安価な大豆粕肥料が普及したため、日本全国の肥料市場で北海道産魚肥の占める割合が急速に減少していきました。明治40年代半ば以降、広海家の取扱商品に占める北海道産海産物は減少し、代わりに小樽店が扱う雑貨の比重が増大していきました。広海家の経営の中で北前船経営以来の北海道産魚肥取引の割合が小さくなっていくのはこの頃といえます。

船は宮島丸と千歳丸の2隻のみとなりましたが、その後も北海道産肥料などの帆船での買積経営は正4（1915）年に最後の帆船・宮島丸を売却するまで継続していました。

『月刊ラブおたる』2021年4月号

## 北前と小樽の精米業



旧共成（小樽オルゴール堂本店）。富山の精米業者。

## 商人と北前船ネットワーク

名取高三郎商店(明治39年築)



39

## 商人と北前船ネットワーク

名取高三郎商店(明治39年築)



ナトリ株式会社蔵

40

## 名取高三郎(1858—1949)

- 明治8(1875)年、北海道でノコギリの行商をしていた叔父の今井喜七に頼んで一緒に渡道。
- 山梨から信州、長岡を経て、信濃川から船で三条まで移動。小金物を仕入れて新潟まで川船。新潟から300石積の弁財船に便乗し小樽へ。
- 航行後まもなく、暴風雨に遭い8日間海上をさまよい、秋田県の男鹿半島の戸賀港にたどり着き、一命を取り留める。
- 高三郎は叔父に成功は危険なところにしかないと叱られた。
- 翌年、余市、岩内での行商のため航海中に再度、遭難。

★当時、山梨の金物商たちは北前船航路を活用して北海道で商売を展開  
★海運関係者ではない商人たちも北前船ネットワークと深く関わる。



## (3)北前船と地域(新潟県の日本遺産「北前船」認定地)

【新潟市】江戸時代、日本海沿岸で最も産物の取扱いが多かったため、北前船最大の寄港地と呼ばれることも。

【長岡市】江戸時代、寺泊が海上交通の要として繁栄。由緒ある寺院が数多く建ち並ぶ。

【佐渡市】西回り航路の寄港地であった小木湊と、西南にある宿根木には北前船ゆかりの建物などがたくさんある。

【出雲崎町】佐渡と江戸の中継点。

【上越市】古くから直江津が栄える。



## 上越市の日本遺産「北前船」



北前船KITAMAE公式サイトより

直江津(今町)は、室町時代に成立した日本最古の海洋法規集である「廻船式目」において、当時の日本で10を数えた重要な港を表す「三津七湊」の一つ。

北前船が就航した江戸時代には、高田藩の外港として各地の港から運ばれてきた塩や砂糖、茶、塩魚などを城下町高田や頸城郡内、信濃へ運び出すための受入港として地域の発展を支える。

## 上越市の北前船日本遺産構成文化財(10件)



**米山**  
北前船船主の航海の目印とされ、海上安全の信仰対象とされてきた山。



**直江津の町並み**  
北前船で栄えた風情が色濃く漂う湊町の町並み。北前船がもたらした笏谷石や御影石等が町なかにみられる。



**旧直江津銀行**  
北前船で栄えた直江津の商工業を支えた明治期の銀行建物。



**直江津の海上信仰資料**  
北前船船主が航海安全を祈願して寺社に奉納した船絵馬・船型模型等。



**北前船関連資料**  
北前船の交易による繁栄の様子を今に伝える古文書・船筆筒・船手形等。



**住吉神社奉納物**  
阿波藍を運ぶ北前船の航海安全と繁栄を祈願し、阿波国藍商人が寄進した石灯籠・手水鉢等。



**金刀比羅神社石灯籠**  
北前船により運ばれた、備後国尾道石工作の石灯籠。



**八坂神社**  
北前船船頭や直江津の廻船業者等、町衆の信仰を集めた神社。尾道石工作の鳥居や筑前銘のある狛犬がある。

北前船KITAMAE公式サイトより

## 上越市の北前船日本遺産構成文化財(10件)



### 直江津・高田祇園祭の御旅所行事と屋台巡行

北前船は直江津に様々な生業を生み、その町衆に支えられた八坂神社の祭礼。神輿は高田城下町を巡幸する。

北前船KITAMAE公式サイトより



### 米大舟

北前船の船乗りにより伝えられた民謡。原曲は、出羽国の酒田節と伝えられる。

## 小樽市の北前船日本遺産構成文化財(7件)



### 日和山

北前船の船乗りたちが出港前に日和をみた場所。北海道で2番目に灯台が建設され、北前船航海の目印ともなった。



### 旧北浜地区倉庫群

北前船の船主が北前船で運んだ物品の保管のために建造した大規模な倉庫群。(旧右近倉庫、旧広海倉庫、旧増田倉庫、旧大家倉庫、旧小樽倉庫)



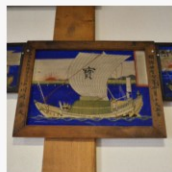
### 旧船禰亭

北前船の船主や商人たちが利用した料亭。



### 住吉神社奉納物

北前船の船主である大家七平及び広海二三郎が寄進した第一鳥居や船乗りらが寄進した手水鉢など。



### 船絵馬群

恵美須神社、龍徳寺金比羅殿



### 北前船関係古写真

明治30年代以前の北前船及びゆかりの市街地などの写真群。



### 西川家文書

北前船の廻船業を営んだ西川家の文書

北前船KITAMAE公式サイトより

## 旧直江津銀行



北前船KITAMAE公式サイトより

明治28年、「直江津積塵銀行」の名称で発足。**北前船で栄えた直江津の商工業を支える。**

銀行は大正4年に解散。海運業を営む高橋達太が銀行の建物を取得。大正9年に現在地へ移転。回漕店の社屋として使用。**「直江津の石炭王」と評される。**

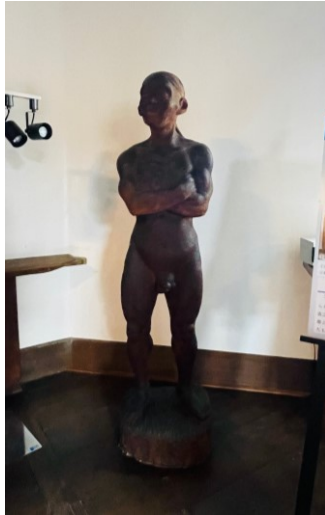
平成31年、市の文化財に指定。**「ライオン像のある館」として開館。**見学、イベント利用可能。

**★上越市の特徴的な構成文化財の一つ。北前船の近代性、直江津の発展を考える上でも重要。**

## 旧直江津銀行(笏谷石の利用)



## 旧直江津銀行(九谷焼、港灣で働く親方の彫刻)



滝川美堂・作(1920年)



九谷焼

## 近代の直江津



- ・江戸時代中期頃の北前船の興隆とともに、直江津今町は高田藩の外港として重要な役割を果たす。
- ・明治期には、郷津湾を含めた直江津の築港計画が陸海運の発達とあわせて計画。大正元年、国の指定港となり、昭和初年には日本海貿易の拠点として大直江津港計画なども立てられる。
- ・明治19年、信越線が開通し、直江津駅が整備。北陸本線も開通。直江津は海運と鉄道の交通の要衝。経済、文化・興隆の結節点となる。  
(『直江津今町と北前船の時代』2020年)

## 3. 北前船遺産を活かした 地域振興の可能性

### 3. 北前船遺産を活かした地域振興の可能性

#### (1)日本遺産「北前船」の意義と課題

- 文化財と観光まちづくりの連動。文化財をストーリーとして認定。文化財の活用による地域振興が目的。
- 構成文化財の認定。従来、曖昧だった北前船と地域の関係性を明確化。観光資源としての活用を可能に。

#### 課題

- 認知度向上。地域振興の実践。文化財と観光の連携。
- 認定自治体間の広域連携。ガイドの整備。

★認定地間で取り組みの格差。新たな候補地域の募集。

★解除地域との「入れ替え制」を導入する方針。





### 3. 北前船遺産を活かした地域振興の可能性

#### (2) 認定自治体の取り組み

##### ①文化財関連

- ・新資料の発見、展示(西谷家資料、九谷焼、船絵馬など)
- ・図書館連携事業。

##### ②各種の地域振興事業

- ・情報発信。ポータルサイト、PV作成、Webセミナー等
- ・学生の活動(大学、小中高校生)
- ・商品化(菓子、雑貨、水産加工品、等)
- ・食文化(コーヒー糖、婚礼料理の再現、等)
- ・歴史的建造物の活用(ショップ、宿泊、等)
- ・フェリー交流事業(加賀市・小樽市)

### 北前船遺産の発見(小樽市、徳源寺、2020年5月)



北海道新聞(小樽後志版、2020年5月25日付)

「発見」のきっかけ  
青山政嘉さん(NPO法人小樽祝津たなげ会)から、歴史研究家の佃信雄さんが徳源寺で船絵馬を見たという情報提供をいただいた。2019年11月に調査を実施。

- 徳源寺の北前船遺産
- ・船絵馬2面
  - ・笏谷石製の出雲狛犬
  - ・笏谷石製の三十三観音

★龍神堂の龍王は山形の善寶寺から勧請、本堂は秋田式など、北前船を関連あり。

## 三十三観音(笏谷石製)

- ・三国からの移住者が建立(徳源寺本堂裏、境内)。
- ・間に別の三十三観音が設置され、交互に配列されている。



## 狛犬(笏谷石製)

徳源寺龍神堂前の狛犬。越前産の笏谷石製。出雲狛犬の構え獅子型。  
日本海文化の融合が伺える北前船遺産。



## 北前船遺産の発見(小樽市、塩谷神社、2020年6月)



「発見」のきっかけ

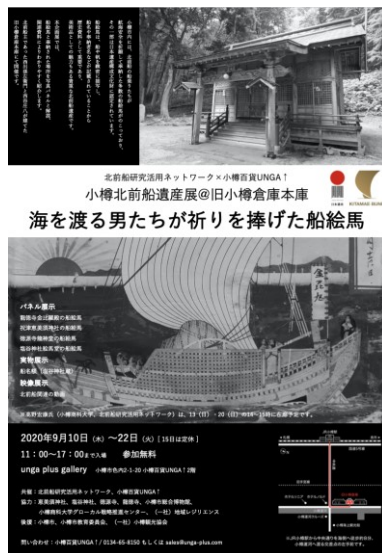
2019年10月に開催された「北前船寄港地フォーラム in 小樽・石狩」で塩谷神社の鈴木宮司、長谷部さんと知り合う。塩谷神社350周年記念事業で資料整理をしていることを伺う。

塩谷神社の北前船遺産

- 船絵馬30面 \* 軍艦1面除く
- 笏谷石製の灯籠
- 尾道の石工が奉納した灯籠
- 来待石製の出雲狛犬
- 船名額(稻荷丸)

★境内地にも北前船遺産あり

## 船絵馬展(小樽市、2020年9月)



★小樽市内で現在までに確認された船絵馬43面全てを写真パネルで紹介。

- 龍徳寺金比羅殿:8面 \* 日本遺産
- 祝津恵美須神社:2面 \* 日本遺産
- 徳源寺龍神堂 :2面
- 塩谷神社総馬堂:31面(軍艦1面含む)

## 塩谷桃内まちづくり推進委員会の設立(2020年9月)



北海道新聞(2020年9月10日付)

### 塩谷桃内まちづくり推進委員会

- ・塩谷・桃内地区の歴史や文化を発信する市民団体。
- ・地域のルーツを探り、まちおこしにつなげる。地域の遺産を構成に残す。
- ・様々な団体や個人と連携。
- ・地区内外から会員(推進委員)を募集中。
- ・「塩谷桃内まちづくりまちづくり講演会」を開催。

## 北前船主・西谷家資料調査(加賀市、2017年～)



## 北前船主・西谷家

- 宝暦10(1760)年、橋立(石川県加賀市)で海運業を創業。明治20年代に小樽へ進出。拠点とする
- 小樽倉庫の創設者。同郷で親戚の北前船主・西出孫左衛門は主な出資者。事実上の経営者は西谷庄八(五代目)。
- 倉庫業、回漕業、海運業、農場、温泉、鉄道貨物、飲食店など、様々な事業に関わる。金比羅山を支援。
- 小樽商業会議所の前身の創設者の一人。
- 画家の中村善策、彫刻家中野五一ら芸術家との親交。
- 小樽と郷里(石川県加賀市橋立町)を往復する生活。戦後、七代目庄八は小樽から郷里へ戻る。

- ★小樽を拠点とし、生活していた北前船主。
- ★2017年から橋立の旧宅の資料調査開始。



西谷家資料

61

## 北前船主の芸術家支援

企画展「中村善策と小樽・風景画の系譜」(市立小樽美術館)  
コーナー展示「北前船主 西谷家と中村善策」



- 加賀出身の北前船主・西谷家は画家の中村善策を支援。パトロン的存在。
- 西谷家6代目妻の肖像画が発見。
- 市立小樽美術館で展示。



- 大正5(1916)年、中村善策は高等小学校卒業後、西谷海運に入社。
- 画家を志し上京を決意する直前の半年間、西谷家の山荘にこもって絵に没頭。画家としての出発点に。

中村善策(1901-1983) 西谷貞子の肖像画

西谷家資料

62

# サハリン(旧樺太・大泊)の西谷倉庫



北海道新聞(2021年5月11日付)

西谷家が**大泊(現・コルサコフ)**に建造。第一号石造倉庫及び船客待合所。

大正14(1926)年撮影の写真を手がかりに確認。現在は国防軍の関連施設であることが確認。

明治45年、西谷家が**大泊**ではじめてとなる営業倉庫を開業。

大泊には**山六夕海**倉庫をはじめ、**北前船主**関係者の倉庫が多数建設。

★**北前船船主の北陸・小樽・樺太のネットワーク**

# 北海道に渡った九谷焼展(市立小樽美術館、2020年)





## 「直江の津」シリーズ



67

## 直江津北前船べんとう



- ★身欠きニシンの昆布巻き 身欠きニシンとタケノコの煮物 数の子  
サメのフライ さずえイカのぬた ぜんまい煮 あげ麩煮
- ★調理:おかずやい〜あんぱい イラスト:ひぐちきみよ
- ★企画:北越出帆 まちおこし直江津

68



## 小樽商大「本気プロ」日本遺産による小樽の活性化チーム

北前カフェ。小樽都通り商店街との連携(2018年9月15日-17日)。  
 来客数:3日間で約200人 販売数:89セット



- 空き店舗を活用 旧石川屋=石川県
- 北前カフェセット提供(300円)。
- 北前船パネル展示。
- 「教えて! あなたのファミリー・ストーリー」(来客が記載・展示)



## 北前カフェ(小樽商大「本気プロ」、2018年)

北前船と小樽のゆかりを活かした3品のセットメニュー(300円)。  
 提供する器は、九谷焼を学んだ小樽の陶芸作家の作品を使用。



### 「小樽瓦焼バウム」

- 北前船で運ばれた若狭瓦をイメージ。
- 製作:(株)円甘味 販売:UNGA↑



### 「昆布茶」

- 北前船で運ばれた昆布をイメージ。
- 提供:利尻屋みのや



### 「コーヒー糖」

- 右近家の北前船が大阪から小樽に運搬。
- 製作:(株)つくし牧田

## プロダクトブランド「UNGA↑」(小樽市)



新商品 7月販売



北前船の姿懐かし  
小樽 瓦焼バウム

今も小樽の街に見られる瓦屋根に使われた若狭瓦は、かつて北前船によって運ばれました。商品としてだけでなく、船の転覆を防ぎ、重心をとるために北前船の船底に積み運ばれてきた若狭瓦は、火事の多かった当時の小樽では特に倉庫や富裕な商店に競って使われたものでした。この瓦が積み上げられた姿をバウムクーヘンの層の重なりとカリッとしたキャラメルの食感で「瓦焼バウム」に表現しました。北海道産の卵・砂糖・バターを使用。

[販売価格] 1,000円+税 常温

★小樽の菓子店「円甘味」と連携

71

## 右近家が運んだ「コーヒー」(福井県南越前町)



中日新聞(2016年5月8日付)

北前船主の館「右近家」西洋館で「北前珈琲」を提供する際、史実で裏付けを取るため右近家文書(河野図書館)を調査。

明治22(1889)年、右近家の永宝丸関連文書(買仕切、売仕切)に「コーヒ糖」を運んだ記録を発見。

大阪の間屋から「コーヒ糖」24箱を仕入れ、船員が17箱を割引で購入。船頭が残り7箱を買い取る。

コーヒーの粉末を入れた角砂糖・お湯を入れてかきまぜるとコーヒーになる。北海道の得意先への土産として買い取ったと推測。当時、北海道の間屋からの注文でブランデーやビールを運んでいた。

72